

《基礎科目》

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	村上 悠				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 広い視野で物事を捉え、感謝の心をもって積極的に学ぶ力をつけている。 1-DP2 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。				

《授業の概要》

本授業では、憲法における人権論を中心に、具体的な事例を取り上げながら解説し、教育者として必要な人権の内容について学びます。
また、憲法改正をめぐる議論が活発化しているため、その動向についても紹介していきます。

《教科書》

プリントを配布します

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

課題については解説の時間を設けます

《授業の到達目標》

日本国憲法に関する基本的な知識や考え方を修得すること
修得した知識や考え方に基づいて、憲法の保障する人権について、倫理的、多角的に考えることができるようになること

《成績評価基準》

成績は、日本国憲法の基礎的な知識や考え方を修得できているか、また、修得した知識を基に憲法の保障する人権についての倫理的・多角的思考ができているかについて評価を行います。

《成績評価の方法》

筆記試験(90%)及び、普通の授業への取り組み(10%)から評価します。

《参考図書》

初宿正典ほか編著『目で見える憲法 第5版』有斐閣、2018年。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	憲法に関する新聞記事などの調査・熟読(1時間) 配布プリントの整理・再読(1時間)
2	憲法とは何か	講義テーマに関する新聞記事などの調査・熟読(1時間) 配布プリントの整理・再読(1時間)
3	民主主義における憲法	講義テーマに関する新聞記事などの調査・熟読(1時間) 配布プリントの整理・再読(1時間)
4	人権の享有主体	講義テーマに関する新聞記事などの調査・熟読(1時間) 配布プリントの整理・再読(1時間)
5	象徴天皇	講義テーマに関する新聞記事などの調査・熟読(1時間) 配布プリントの整理・再読(1時間)
6	日本国憲法の三大原理	講義テーマに関する新聞記事などの調査・熟読(1時間) 配布プリントの整理・再読(1時間)
7	法の下での平等	講義テーマに関する新聞記事などの調査・熟読(1時間) 配布プリントの整理・再読(1時間)
8	幸福追求権、自己決定権	講義テーマに関する新聞記事などの調査・熟読(1時間) 配布プリントの整理・再読(1時間)
9	人権の分類	講義テーマに関する新聞記事などの調査・熟読(1時間) 配布プリントの整理・再読(1時間)
10	思想良心の自由、表現の自由、信教の自由	講義テーマに関する新聞記事などの調査・熟読(1時間) 配布プリントの整理・再読(1時間)
11	経済的自由権、身体的自由権	講義テーマに関する新聞記事などの調査・熟読(1時間) 配布プリントの整理・再読(1時間)
12	社会権、生存権	講義テーマに関する新聞記事などの調査・熟読(1時間) 配布プリントの整理・再読(1時間)
13	教育を受ける権利、労働基本権	講義テーマに関する新聞記事などの調査・熟読(1時間) 配布プリントの整理・再読(1時間)
14	三権分立	講義テーマに関する新聞記事などの調査・熟読(1時間) 配布プリントの整理・再読(1時間)
15	まとめ	これまでの講義内容の再確認(2時間) 配布プリントの整理・再読(2時間)

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	富永 真子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 広い視野で物事を捉え、感謝の心をもって積極的に学ぶ力をつけている。				

《授業の概要》

【保育士選択】【幼稚園教諭選択】

フォニックス（英語圏の子供達が、読み書きを身につけるための学習法）を学習することで「カタカナ英語」にならない、自然なスピードで発話できるよう指導します。英語で学習した基礎文法を応用した様々な場面での会話例を「自然な発音」で躊躇なく話す練習を行う。

《授業の到達目標》

小学校の英語教育改革が始まり、就学前の園児の英語教育が注目される中、園児を指導するにあたり、手本となる発音、英語圏の多様な知識・文化の習得が必要です。前期で学習した「言語としての基礎知識」ととどまらず、授業を通して一人一人が自信を持って「指導する側」に立てるようになることを目標とする。

《成績評価の方法》

筆記試験30%
授業内実技70%

《教科書》

教科書なし
各自ノート2冊を準備する
(1冊はオリジナルテキスト作成用)

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

授業内での対話文のペアワークの発表や、課題に対する回答発言に対し、その発音、強弱、表現力等を総合的に評価し「授業内獲得ポイント」として授業内に評価し通知する。最終的な期末試験(筆記)にそれらの合計点(70点満点)を加算する。

《成績評価基準》

・フォニックスを意識して正しく発音できているか？さらにフォニックスをふまえた上で、表情、姿勢、声のトーンなど総合的に「自然な表現」ができているか。

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	日本語「50音」との音の違い(フォニックス)	復習: 毎日10分発音練習
2	フォニックス(t,d郡、b,p,m郡、f,v軍)	復習: 毎日10分発音練習
3	対話文「ショッピングでのシーン」	復習: 毎日10分発音練習
4	対話文「ショッピングでのシーン」	復習: 毎日10分発音練習
5	対話文「ショッピングでのシーン」	復習: 毎日10分発音練習
6	フォニックス(r/lの違い、「h」「th」)	復習: 毎日10分発音練習
7	対話文「道を訪ねる/教えるシーン」①	復習: 毎日10分発音練習
8	対話文「道を訪ねる/教えるシーン」	復習: 毎日10分発音練習
9	対話文「道を訪ねる/教えるシーン」	復習: 毎日10分発音練習
10	フォニックス(カタカナ単語を英語読みに)	復習: 毎日10分発音練習
11	対話文「ホテルチェックインするシーン」①	復習: 毎日10分発音練習
12	対話文「ホテルチェックインするシーン」	復習: 毎日10分発音練習
13	対話文「ホテルチェックインするシーン」	復習: 毎日10分発音練習
14	確認と総復習	半期に学んだ「気づき」をノートにまとめる
15	試験、まとめ	半年間の「毎日10分発音練習」を続けていく

《基礎科目》

科目名	中国語				
担当者氏名	藤井 芳子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 広い視野で物事を捉え、感謝の心をもって積極的に学び力をつけている。				

《授業の概要》

1. 中国語でコミュニケーションを取る為に必要な基本を学ぶ。
2. 言語はコミュニケーションの為に道具とされているので、義務教育で学んだ英語と比較しながら習得し、より多くの人と意見交換や感情表現ができる事を意識して学ぶ。
3. 将来の仕事にも生かせる様に、検定試験をも視野に入れて学ぶ。
4. 中国のお金の価値を知り、買い物練習をする。

《授業の到達目標》

1. 全てのピンイン（発音記号）が読めるようになる。
2. 漢字（簡体字）がより多く、正しく書けるようになる。
3. 日本語とは違う漢字の意味を正しく知り、筆談が出来たり、SNSなどで発信された記事が読み取れるようになる。
4. 中国語で自分の名前や趣味などが言えるようになる。
5. 学籍番号や電話番号がスムーズに言えるようになる。
6. 中国のお金の価値を知り、買い物が出来ようになる。

《成績評価の方法》

- 筆記試験（期末） 40%
 課題プリント提出 40%
 授業の取組 20%

（正しく発音できているか、中国語で挨拶できているか等）

《教科書》

グッと入門中国語（株）金星堂
 芦田久美子・氷野善寛・王牧 著
 （中日・日中辞典、音節表、中国地図、漢字ドリル付）

《課題（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法》

教科書に対応した課題プリントに取り組む。
 採点の上返却されるので各自がしっかりと確認できる。
 訂正ヶ所があれば、再提出する事により確実に習得する。

《成績評価基準》

1. 教科書に正しく記入できている。
2. 課題プリントに記入して提出する。
 漢字を正しく覚える。
 リスニング力の確認。
3. 入退室時に中国語にて挨拶をし、発音をチェックする。
4. 買い物練習や自己紹介を積極的にする。

《参考図書》

中国語検定試験の解説本など、適宜紹介。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	【オリエンテーション】 前期の復習	この授業においての達成目標を立てる。(予習30分) 簡体字、ピンイン、四声の理解が出来ているか確認する。(復習30分)
2	【第4課】 新出単語と会話文	【第4課】新出単語の日本語訳を見て、会話文の内容を知る。(予習30分) 漢字ドリルの記入と新出単語を覚える。(復習30分)
3	【形容詞述語文】 形容詞色々、程度副詞	形容詞色々を学ぶ。(予習30分) お天気などについて、程度や否定の言い方を覚える。(復習30分)
4	【第5課】 新出単語と会話文	【第5課】新出単語の日本語訳を見て、会話文の内容を知る。(予習30分) 漢字ドリルの記入と新出単語を覚える。(復習30分)
5	【量詞】 買い物練習	個数や人数の数え方を学ぶ。(予習30分) 中国のお金についての知識を得る。(復習30分)
6	【第6課】 買い物練習	【第6課】新出単語の日本語訳を見て、会話文の内容を知る。(予習30分) 漢字ドリルの記入と新出単語を覚える。(復習30分)
7	【場所代名詞】 買い物練習	「ここ/あそこ/どこ」について学ぶ。(予習30分) 実際に売り手と買い手に分かれて、買い物練習をする。(復習30分)
8	【第7課】 新出単語と会話文	【第7課】新出単語の日本語訳を見て、会話文の内容を知る。(予習30分) 漢字ドリルの記入と新出単語を覚える。(復習30分)
9	【時刻の言い方】 自己紹介の練習	自分の好きな事や趣味を中国語で言う練習をする。(予習30分) 言い換え練習と、自己紹介が言えるようになる。(復習30分)
10	【第8課】量詞 新出単語と会話文	【第8課】新出単語の日本語訳を見て、会話文の内容を知る。(予習30分) 漢字ドリルの記入と新出単語を覚える。(復習30分)
11	【第9課】 新出単語と会話文	【第9課】新出単語の日本語訳を見て、会話文の内容を知る。(予習30分) 漢字ドリルの記入と新出単語を覚える。(復習30分)
12	【第10課】 新出単語と会話文	【第10課】新出単語の日本語訳を見て、会話文の内容を知る。(予習30分) 漢字ドリルの記入と新出単語を覚える。(復習30分)
13	【後期の総復習】 自己紹介の練習	色々な名詞、形容詞、動詞、副詞、助動詞などの確認。(予習30分) 自分の名前、年齢、趣味などの発音の練習をする。(復習30分)
14	【総まとめ】 練習問題	後期の復習をする。(予習30分) 練習問題を解いてみる。(復習30分)
15	【総まとめ】 習得出来ているかの確認	期末試験として、後期総まとめの問題を解く。(予習30分) 疑問点を確認し解決する。(復習30分)

《専門科目》

科目名	子ども家庭支援の心理学				
担当者氏名	富永 明子				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 保育者としての専門的知識と基礎スキルが身についている。				

《授業の概要》

【保育士必修】

現代社会の家族や子育てに関する問題について、心理学的な視点から事象を読み解けるようになるよう、テキストに沿った講義により学ぶ。
社会問題となっている事例について考察し、グループディスカッションを通して理解を深める。

《授業の到達目標》

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を説明できる
2. 家族、家庭の意義や機能を理解し、親子関係や家族関係についての発達的な視点をそなえる
3. 現代の子育て家庭の社会的状況と課題について知り、子どもとその家庭のニーズを把握できる
4. 子どもや子育てをする親の精神保健を理解し、社会的課題と望ましい支援について説明することができる

《成績評価の方法》

筆記試験 80% レポート 10%
課題 % 実技 %
授業の取組 10%
その他 () %

《教科書》

「子ども家庭支援の心理学」松本園子・永田陽子・長谷部比呂美・日比暁美・堀口美智子著、ななみ書房

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

レポートについては必要に応じたコメントをつけて2週間以内に返却する。
筆記試験の後は解説を行う。

《成績評価基準》

学んだ知識・理論等を、暗記レベルではなく自分自身の言葉で説明できるような理解、説明ができるか。
授業に意欲を持って取り組み、理解したことを適切に表現できるか。

《参考図書》

「子どもを愛せなくなる母親の心がわかる本」大日向雅美(監修) 講談社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション/子育て家庭支援の視点	予習: 新聞等で子育てに関する問題を調べる(2時間) 復習: プリントを活用して授業内容をまとめる(2時間)
2	生涯発達と初期経験の重要性	予習: 教科書 p9~19を読む(2時間) 復習: プリントを活用して授業内容をまとめる(2時間)
3	家族、家庭の理解	予習: 教科書 p21~27を読む(2時間) 復習: プリントを活用して授業内容をまとめる(2時間)
4	子育てを取り巻く社会的状況	予習: 教科書 p29~41を読む(2時間) 復習: プリントを活用して授業内容をまとめる(2時間)
5	ライフコースと仕事、子育て	予習: 教科書 p41~45を読む(2時間) 復習: プリントを活用して授業内容をまとめる(2時間)
6	多様な家庭とその理解	予習: 教科書 p46~55を読む(2時間) 復習: プリントを活用して授業内容をまとめる(2時間)
7	特別なニーズを持つ家庭と援助 障がい等	予習: 教科書 p57~68を読む(2時間) 復習: プリントを活用して授業内容をまとめる(2時間)
8	特別なニーズを持つ家庭と援助 DV	予習: 教科書 p68~72を読む(2時間) 復習: プリントを活用して授業内容をまとめる(2時間)
9	特別なニーズを持つ家庭と援助 ひとり親	予習: 教科書 p73~83を読む(2時間) 復習: プリントを活用して授業内容をまとめる(2時間)
10	子どもの精神保健と課題 子どもの心の理解	予習: 教科書 p85~93を読む(2時間) 復習: プリントを活用して授業内容をまとめる(2時間)
11	子どもの精神保健と課題 幼児期の精神保健	予習: 教科書 p93~100を読む(2時間) 復習: プリントを活用して授業内容をまとめる(2時間)
12	子どもの精神保健と課題 児童期・青年期	予習: 教科書 p101~107を読む(2時間) 復習: プリントを活用して授業内容をまとめる(2時間)
13	子どもの精神保健と課題 喪失体験への対応	予習: 教科書 p107~111を読む(2時間) 復習: プリントを活用して授業内容をまとめる(2時間)
14	児童虐待	予習: 教科書 p111~117を読む(2時間) 復習: プリントを活用して授業内容をまとめる(2時間)
15	事例を通じた考察/授業のまとめ	予習: 授業全体をふり返り、質問を考えておく(2時間) 復習: プリントを活用して授業内容をまとめる(2時間)

《専門科目》

科目名	子どもの食と栄養				
担当者氏名	大仁田 あずさ				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 保育者としての専門的知識と基礎スキルが身についている。				

《授業の概要》

【保育士必修】

本科目では、「子どもの食と栄養」で習得した知識を基に、調理実習を通じて、子どもの発育・発達段階に応じた望ましい食事のとり方について学ぶ。また、保育における食育の意義や近年、深刻化している食物アレルギー等の特別な配慮を要する子どもの食生活の現状と対応についても理解を深める。

《教科書》

「新・基本保育シリーズ 子どもの食と栄養」堤ちはる・藤澤由美子編、中央法規

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

試験のフィードバックとして、試験内容に対する解説の時間を設ける。

《授業の到達目標》

- 1.調理実習を通して調理技術を習得し、発育・発達段階に応じた望ましい子どもの食事を作ることができる。
- 2.保育における食育の意義と内容を理解し、保育の一環としての食育を展開することができる。
- 3.食物アレルギー等の特別な配慮を要する子どもの食生活の現状と対応について説明できる。

《成績評価基準》

成績評価は筆記試験、課題提出、実技、受講態度等を鑑み評価する。

《成績評価の方法》

- 筆記試験70%
- 課題10%
- 実技10%
- 授業の取組10%

《参考図書》

「令和3年版 食育白書」農林水産省編、日経印刷

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	幼児期の心身の発達と食生活 幼児期の食生活	予習：教科書 p.85～88を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
2	幼児期の心身の発達と食生活 幼児期の間食	予習：教科書 p.88～96を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
3	調理実習 【調乳・月齢別ベビーフードの試食】	予習：教科書 p.66～69を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
4	調理実習 【離乳食1】 離乳中期の食事	予習：教科書 p.75～77を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
5	調理実習 【離乳食2】 離乳完了期の食事	予習：教科書 p.76～79を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
6	調理実習 【幼児食1】 3～5歳児の食事	予習：教科書 p.88～91を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
7	調理実習 【幼児食2】 3～5歳児のおやつ	予習：教科書 p.89,92,93を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
8	学童期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活	予習：教科書 p.97～99,102,103を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
9	食育の基本と内容 食育の意義と考え方	予習：教科書 p.109～120を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
10	食育の基本と内容 食育の内容と計画、評価	予習：教科書 p.121～136を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
11	食育の基本と内容 地域や家庭との連携	予習：教科書 p.137～148を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
12	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	予習：教科書 p.149～160を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
13	特別な配慮を要する子どもの食 疾病、障がい等	予習：教科書 p.161～172,176～179を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
14	特別な配慮を要する子どもの食 食物アレルギー	予習：教科書 p.173～177,180～186を熟読しておくこと(30分) 復習：講義資料をもとに授業で学んだことをまとめる(30分)
15	まとめ	予習：これまでの講義資料とノートの整理をしておくこと(30分) 復習：授業ノートをもとにこれまでの講義内容を確認する(30分)

《専門科目》

科目名	保育内容「人間関係」の指導法				
担当者氏名	高丘 有季乃				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP4 他者とのコミュニケーション能力も含めた表現力が身につけている。				

《授業の概要》

【保育士必修】【幼稚園教諭必修】
 「幼児と人間関係」の授業で学んだことについて、より理解を深め、実際の指導場面で実践ができるために、教科書、オリジナル資料、DVD 教材等を用いながら、ワークや事例についての検討・考察を行うことで深く理解していく。また、ロールプレイを通じた考察、ICT も活用した指導案作成、模擬保育等を通して実践力をつける。

《授業の到達目標》

1. 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「人間関係」において育みたい資質能力について説明できる。2. 領域「人間関係」のねらいと内容について理解を深め、説明することができる。3. 幼稚園等での人間関係に関わる具体的な指導場面を想定して、適切な保育・教育を実践する方法がわかり、行うことが出来る。4. 一個人として日常の人間関係において、子どもたちの人的環境および行動モデルになるあり方を意識できている。

《成績評価の方法》

筆記試験 70%
 課題 20%
 授業の取組 10%

《教科書》

「ワークで学ぶ保育内容『人間関係』」菊地篤子著、みらい

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

レポートについては必要に応じたコメントをつけて2週間以内に返却する。筆記試験の後には解説を行う。

《成績評価基準》

体験から学んだ視点、指導方法について、現場で臨機応変に活かせることを説明できるか。また、授業に意欲をもって取り組み、理解したことを適切に表現できるか。

《参考図書》

「体験する・調べる・考える領域人間関係」田宮縁 萌文書林

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	領域「人間関係」のより深い理解のために	予習：教科書の第2編に目を通し、授業の概要を見ておく(2時間) 復習：教科書を読みなおし、授業内容を整理する(2時間)
2	領域「人間関係」を理解し説明する	予習：教科書 P106～11 を読み領域「人間関係」の基本事項を見直す(2時間) 復習：教科書を読みなおし、授業内容を整理する(2時間)
3	事例検討 集団における子どもの内面について	予習：教科書 P12～118を読む(2時間) 復習：教科書を読みなおし、授業内容を整理する(2時間)
4	事例検討 子どもの自立を促す保育者のかかわり	予習：実習での体験から保育者が子どもにかかわる場面を抽出しておく(2時間) 復習：授業内容をふりかえり整理する(2時間)
5	事例検討 遊びから人との関わりを育てるには	予習：子どもどうしのいざこざ場面について抽出しておく(2時間) 復習：授業内容をふりかえり整理する(2時間)
6	事例検討 生活に必要な人とのコミュニケーションを育む	予習：自分自身のコミュニケーションのあり方に意識してみる(2時間) 復習：授業内容をふりかえり、自身の課題にとりくむ(2時間)
7	事例検討 「困った子ども」との関わりを考える	予習：教科書 P150～158を読む(2時間) 復習：教科書を読みなおし、授業内容を整理する(2時間)
8	行事での指導と人間関係 情報収集と指導案作成	予習：実習での行事場面の指導について抽出しておく(2時間) 復習：授業内容についてふりかえり整理する(2時間)
9	行事での指導と人間関係 模擬保育と映像の検討	予習：指導場面についての模擬保育について準備する(2時間) 復習：授業内容をふりかえり整理する(2時間)
10	人との関わりが豊かになるための環境構成	予習：教科書 P18～122を読む(2時間) 復習：教科書を読みなおし、授業内容を整理する(2時間)
11	人との関わりが豊かになる子どもの環境	予習：教科書 P123～131を読む(2時間) 復習：教科書を読みなおし、授業内容を整理する(2時間)
12	子どもどうしの関係を育むための遊び	予習：教科書 P132～149を読む(2時間) 復習：教科書を読みなおし、授業内容を整理する(2時間)
13	模擬保育と検討	予習：指導案を完成させ模擬保育ができるよう準備する(2時間) 復習：授業内容についてふりかえり整理する(2時間)
14	小学校生活以降へつなげる人間関係の土台づくり	予習：教科書 P159～168を読む(2時間) 復習：教科書を読みなおし、授業内容を整理する(2時間)
15	豊かな人間関係構築、自己尊重的な素地づくり	予習：授業全体をふりかえり、質問を考えておく(2時間) 復習：授業内容を整理する(2時間)

《専門科目》

科目名	保育内容「環境」の指導法				
担当者氏名	下稲 美里				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP4 他者とのコミュニケーション能力も含めた表現力が身につけている。				

《授業の概要》

【保育士必修】【幼稚園教諭必修】保育事例や子どもの映像資料等をもとに、子どもにとっての「身近な環境」と「環境を通して行う」ことの重要性について理解した上で、領域「環境」に関するねらい及び内容が達成されるような計画、指導計画の立案を行う。その際に、ICTを活用し情報を収集する。また、グループ毎に指導計画を立案し、模擬保育の実践や実践後の省察を通して、領域「環境」に関する指導法を身につける。

《授業の到達目標》

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容の基本的専門知識の習得と幼児教育の特徴である「環境を通して行う」ことの重要性を理解する。2. 子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程をふまえ、領域「環境」の具体的な指導場面から保育を構想する方法を身に付ける。3. 指導案を立案し、実践できる。4. 模擬保育実践を省察し、課題を見出し明確にすることができる。

《成績評価の方法》

筆記試験 0% レポート 40%
 課題 30% 実技 0%
 授業の取組 30%
 その他 () 0%

《教科書》

幼稚園教育要領（2017年）文部科学省
 保育所保育指針（2017年）厚生労働省

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

毎授業の終盤で感想の記入を求めるが、授業内容の捉え方のずれや質問等があった場合は、授業内で全体に解説を行う。課題（指導案）は、適宜コメント等をつけて返却する。模擬保育の実践後は、授業内でフィードバックと講評を行う。

《成績評価基準》

1. 授業に意欲的に参加し、グループで協働する意識を持ち、指導案立案、実践準備、実践、省察の流れを遂行できたか。
 2. 感想や指導案立案等の課題に真摯に取り組み、期日までに提出ができたか。
 3. 本授業で学んだことを自分の言葉で説明したり、述べたりすることができ、授業の到達目標が達成できたか。

《参考図書》

授業内で適宜紹介する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション ～保育内容「環境」	予習内容 幼稚園教育要領を熟読する(2時間) 復習内容 授業の資料を振り返り、整理する(2時間)
2	子どもの発達と領域「環境」	予習内容 授業内で提示した課題に取り組む(2時間) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(2時間)
3	保育環境の理解と観察記録	予習内容 授業内で提示した課題に取り組む(2時間) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(2時間)
4	領域「環境」のねらい及び内容	予習内容 授業内で提示した課題に取り組む(2時間) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(2時間)
5	自然環境と保育 ～ICTを活用した情報収集	予習内容 野菜の栽培に関する情報を収集し、まとめる(2時間) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(2時間)
6	自然環境と保育 ～野菜の栽培に関する立案	予習内容 授業内で提示した課題に取り組む(2時間) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(2時間)
7	自然環境と保育 ～指導案プレゼンテーション	予習内容 授業内で提示した課題に取り組む(2時間) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(2時間)
8	自然環境と保育 模擬保育者観省察	予習内容 授業内で提示した課題に取り組む(2時間) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(2時間)
9	数量・図形への興味・関心	予習内容 授業内で提示した課題に取り組む(2時間) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(2時間)
10	標識・文字等への興味・関心 ～学内探索	予習内容 授業内で提示した課題に取り組む(2時間) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(2時間)
11	身近な素材や自然物を用いた指導案作成、準備	予習内容 授業内で提示した課題に取り組む(2時間) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(2時間)
12	身近な素材や自然物を用いた模擬保育	予習内容 授業内で提示した課題に取り組む(2時間) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(2時間)
13	身近な素材や自然物を用いた模擬保育	予習内容 授業内で提示した課題に取り組む(2時間) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(2時間)
14	身近な素材や自然物を用いた保育実践の省察	予習内容 授業内で提示した課題に取り組む(2時間) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(2時間)
15	まとめ	予習内容 第1～14回授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(2時間) 復習内容 第1～15回授業を振り返り、学びを整理する(2時間)

《専門科目》

科目名	社会的養護				
担当者氏名	永瀬 枯緑				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 保育者としての専門的知識と基礎スキルが身についている。				

《授業の概要》

【保育士必修】
「社会的養護」に引き続き、家庭養護と施設養護の概要と役割について理解を深める。また、映像教材等を使って施設現場の現状や課題等を把握し、社会的養護における保育士としての役割と倫理について学び、基本的な知識や技術等を修得し、実践力の向上を図る。なお、国の動向等についても、授業内容と関連させ適宜情報提供する。

《授業の到達目標》

- ・施設養護と家庭養護の制度および各施設の概要と役割について具体的に説明できる。
- ・社会的養護における保育士の役割と倫理を説明できる。
- ・社会的養護の課題と展望を的確に述べることができる。

《成績評価の方法》

筆記試験 80%
授業の取組 20%

《教科書》

「社会的養護」 監修 公益財団法人 児童育成協会 編集 相沢仁 村井美紀 大竹智 中央法規 2019

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

試験内容に対する振り返りや解説の時間を設ける。

《成績評価基準》

- ・施設養護と家庭養護の制度および各施設の概要と役割について具体的に説明できるようになったか。
- ・社会的養護における保育士の役割と倫理を説明できるようになったか。
- ・社会的養護の課題と展望を的確に述べるようになるようになったか。

《参考図書》

なし

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	子どもの権利擁護	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
2	社会的養護における子供の理解	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
3	社会的養護の内容 日常生活支援	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
4	社会的養護の内容 心理的支援	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
5	社会的養護の内容 自立支援	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
6	施設養護の生活特性および実際	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
7	施設養護の生活特性および実際	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
8	家庭養護の生活特性および実際	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
9	アセスメントと個別支援 計画の作成	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
10	記録および自己評価	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
11	保育の専門性および知識 ・技術とその実践	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
12	相談援助の知識・技術と その実践	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
13	社会的養護におけるソー シャルワーク	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
14	社会的養護における家庭 支援	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)
15	今後の社会的養護の課題 と展望	予習：指定された教科書の箇所を熟読しておくこと(30分) 復習：授業で使用したシート等を振り返ること(30分)

《専門科目》

科目名	子育て支援				
担当者氏名	北野 哲也				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP3 保育者としての専門的知識と基礎スキルが身についている。				

《授業の概要》

【保育士必修】子育て支援の実際の事例をもとに、国家資格として保育士に求められている子どもの保育と保護者に対する保育に関する指導の理解を深め、保育に関する専門的知識・技術・倫理・価値観など子どもの成長を通して親子をユニットとしてとらえ、それぞれへの関係性を構築するための子育て支援の知識と技術を理解する。

《授業の到達目標》

1. 子育て支援の意義と原則について理解を深め、保育者としての使命感や倫理観を高める。2. 子育て支援の基本を理解し、子どもの成長に沿った親育ちの過程と関係性を理解する。3. 子育て支援の実際を学び、内容と方法を理解し、保育士の専門的基礎知識と判断力を習得する。4. 子育て支援の実際を通して保育所や認定こども園等の福祉施設や地域の関係機関との連携を構築する現状について理解する。

《成績評価の方法》

筆記試験 70% レポート 5%
 課題 5% 実技 10%
 授業の取組 10%
 その他 () %

《教科書》

子育て支援 小橋明子 監修・執筆 木脇奈智子 編集・執筆
 小橋拓真 川口めぐみ 執筆 中山書店

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

講義に関連する資料及び課題、振り返り等を記入することで求められる支援内容の理解に努め、グループによる振り返りの時間を設け、子育て支援についての共通理解を高めます。

《成績評価基準》

成績評価は、筆記試験及び課題及び講義の取り組み態度等を鑑み評価する。

《参考図書》

保育所保育指針およびその解説書、認定こども園及び幼稚園教育要領、関係法令集 など

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	子どもの保育とともに行う保護者の支援	保育の特性についての理解：30分、保育士の業務の理解：30分
2	日常的、継続的な保護者との信頼関係づくり	保護者との相互理解：30分、保育者の基本的態度の理解：30分
3	保護者や家庭にかかわる支援の理解	支援のニーズ：30分、支援のプロセス：30分
4	子どもおよび保護者の状況、状態の把握	支援のツールの理解：30分、アセスメントの理解：30分
5	支援の計画と環境の構築	目標の設定：30分、計画の内容：30分
6	支援の実践・記録・評価・カンファレンス	評価の支援：30分、PDCAサイクルの理解：30分
7	職員間の連携・協働	職員間の協働：30分、キャリアアップ研修の流れ：30分
8	社会資源の活用と専門性と連携・協働	地域資源の理解：30分、地域資源の活用：30分
9	保育所等における支援	保護者のニーズ：30分、育児の現状の理解：30分
10	地域の子育て家庭に対する支援	拠点保育所の役割：30分、地域子育て支援：30分
11	障害児およびその家庭に対する支援	障害児のいる家庭への理解：30分、いろいろな環境にいる子どもの理：30分
12	特別な配慮を要する子どもとその家庭	特別な配慮を必要とする家庭の理解：30分、気になる子ども：30分
13	子どもの虐待の予防と対応	児童虐待防止法の理解：30分、ステップファミリー：30分
14	多様な支援ニーズを抱える子育て支援	親子関係の問題：30分、要保護児童の理解：30分
15	試験及び振り返り	グループによる振り返りと見直し

《専門科目》

科目名	子どもと音楽表現				
担当者氏名	吉原 美南子、和田 紘平、加藤 みゆき、室北 昌子、水崎 玄、横須賀 紋子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP4 他者とのコミュニケーション能力も含めた表現力が身につけている。				

《授業の概要》

個人レッスン形式の音楽表現活動の実践により、実習園からの課題、就職試験の課題曲等、各自の不得意な音楽的要素の克服をはじめ、自分自身の課題を見つめ直すことができる。日々の小さな積み重ねによる音楽表現活動記録の記入により、保育者として子どもと楽しい音楽表現活動を行う上で不可欠な音楽表現技術の更なる実力アップに繋ぐことができ、保育者として喜びに溢れた音楽表現活動実践力を培う。

《授業の到達目標》

1. 保育内容の理解と方法(音遊び)、子どものためのピアノ表現の授業で習得した内容を踏まえ、更なる応用的な技術と豊かな表現力を身につける。
2. 日々の音楽表現活動の記録を付け、自身の弱点を把握し、改善策を考え実行し、実力アップにつなぐ。
3. 保育現場で用いられる様々な音楽表現活動のレポーターを増やし、現場での実践力を身につける。

《成績評価の方法》

実技 50%
授業の取組(中間発表を含む) 50%

《教科書》

「あなたも弾けるやさしい童謡唱歌集」木村鈴代編著 同文書院

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

毎回、予習、復習、授業内での学びを音楽表現ノートに記入し、授業時に、教員に提示する。
教員のコメント記入後、各自受け取り、次回の授業に備える。

《成績評価基準》

1. 応用的技術を習得し、豊かな音楽表現を身につけることができたか。
2. 音楽表現活動の記録(音楽表現ノート)を付け、自身の弱点を把握し克服できたか。
3. 保育現場で用いられる音楽表現活動のレポーターを増やし、実践できる力を身につけることができたか。

《参考図書》

随時提示する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	予習:音楽表現活動(ピアノ実技、弾き歌い)を毎日練習し記録を記す。(合計30分) 復習:授業での学び、気づき、改善策を考え、活かした練習を行い記録を記す。(計30分)
2	個人レッスン	予習:音楽表現活動(ピアノ実技、弾き歌い)を毎日練習し記録を記す。(合計30分) 復習:授業での学び、気づき、改善策を考え、活かした練習を行い記録を記す。(計30分)
3	個人レッスン	予習:音楽表現活動(ピアノ実技、弾き歌い)を毎日練習し記録を記す。(合計30分) 復習:授業での学び、気づき、改善策を考え、活かした練習を行い記録を記す。(計30分)
4	個人レッスン	予習:音楽表現活動(ピアノ実技、弾き歌い)を毎日練習し記録を記す。(合計30分) 復習:授業での学び、気づき、改善策を考え、活かした練習を行い記録を記す。(計30分)
5	個人レッスン	予習:音楽表現活動(ピアノ実技、弾き歌い)を毎日練習し記録を記す。(合計30分) 復習:授業での学び、気づき、改善策を考え、活かした練習を行い記録を記す。(計30分)
6	個人レッスン	予習:音楽表現活動(ピアノ実技、弾き歌い)を毎日練習し記録を記す。(合計30分) 復習:授業での学び、気づき、改善策を考え、活かした練習を行い記録を記す。(計30分)
7	個人レッスン	予習:音楽表現活動(ピアノ実技、弾き歌い)を毎日練習し記録を記す。(合計30分) 復習:授業での学び、気づき、改善策を考え、活かした練習を行い記録を記す。(計30分)
8	中間発表会	予習:音楽表現活動(ピアノ実技、弾き歌い)を毎日練習し記録を記す。(合計30分) 復習:発表会での他者演奏のいい点、自己反省を記し、練習法を改善する。(計30分)
9	個人レッスン	予習:音楽表現活動(ピアノ実技、弾き歌い)を毎日練習し記録を記す。(合計30分) 復習:授業での学び、気づき、改善策を考え、活かした練習を行い記録を記す。(計30分)
10	個人レッスン	予習:音楽表現活動(ピアノ実技、弾き歌い)を毎日練習し記録を記す。(合計30分) 復習:授業での学び、気づき、改善策を考え、活かした練習を行い記録を記す。(計30分)
11	個人レッスン	予習:音楽表現活動(ピアノ実技、弾き歌い)を毎日練習し記録を記す。(合計30分) 復習:授業での学び、気づき、改善策を考え、活かした練習を行い記録を記す。(計30分)
12	個人レッスン	予習:音楽表現活動(ピアノ実技、弾き歌い)を毎日練習し記録を記す。(合計30分) 復習:授業での学び、気づき、改善策を考え、活かした練習を行い記録を記す。(計30分)
13	個人レッスン	予習:音楽表現活動(ピアノ実技、弾き歌い)を毎日練習し記録を記す。(合計30分) 復習:授業での学び、気づき、改善策を考え、活かした練習を行い記録を記す。(計30分)
14	個人レッスン	予習:音楽表現活動(ピアノ実技、弾き歌い)を毎日練習し記録を記す。(合計30分) 復習:授業での学び、気づき、改善策を考え、活かした練習を行い記録を記す。(計30分)
15	音楽表現実技の発表	予習:音楽表現活動(ピアノ実技、弾き歌い)を毎日練習し記録を記す。(合計30分) 復習:保育者としての楽しい音楽表現実現に必要な練習を重ねていく。(計30分)

《専門科目》

科目名	教育実習指導				
担当者氏名	平山 隆浩、溝上 敦子、下稻 美里、高丘 有季乃				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・通年（後期）
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。				

《授業の概要》

【幼稚園教諭必修】

教育実習に係る事前指導と事後指導を行う。
 実習終了後は、PDCAサイクルシートを活用し自己課題を明確にする。また、1・2年生合同でグループワーク形態の実習報告会を行い、学びの共有化を図る。
 授業と実習の経験を総合的に省察し、就職後の自分をイメージして幼児教育の学びを確かなものにする。

《授業の到達目標》

1.教育実習の意義や目的を理解するとともに、教育実習に関する自己課題を具体的に表現することができる。 2.教育実習に関する手続きや書類作成など、実習までの準備を確実に遂行することができる。 3.第1・2回教育実習終了後、自己課題の評価を的確に行い、成果と課題を教育実習報告会で報告することができる。 4.教育実習後、自らの実習を総合的に点検し、省察して自己課題を整理し具体的に述べることができる。

《成績評価の方法》

筆記試験 0% レポート 30%
 課題 30% 実技 0%
 授業の取組 20%
 その他 () 20%

《教科書》

『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』小櫃智子（編）わかば社

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

実習の手続きに関する書類は回収し、添削して適宜指導を行う。
 課題やレポートについては、第1回及び第2回教育実習報告会終了後に評価して返却する。

《成績評価基準》

授業や実習に意欲的に参加できるか。
 実習の手続きに関する書類や課題等に真摯に取り組み、留意事項を守って、期日までに提出ができるか。
 本授業で学んだことを自分の言葉で説明したり、述べたりすることができるか、授業の到達目標である4点が達成できているか。

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館
 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』小櫃智子（編）わかば社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	第2回教育実習直前指導	予習内容 実習に向けての準備をする(30分) 復習内容 授業を振り返り、自分なりにノートにまとめる(30分)
2	第2回教育実習事後指導	予習内容 お礼状を作成する(30分) 復習内容 20日間の実習を終えて、実習で学んだことを整理する(30分)
3	教育実習報告会準備	予習内容 実習報告に向けて、報告したい内容を整理する(30分) 復習内容 1年生からの事前質問の回答を準備する(30分)
4	1・2年生合同教育実習報告会	予習内容 報告会で報告する内容、紹介物(日誌、教材等)を準備する(30分) 復習内容 報告会の内容を省察し、整理する(30分)
5	就職に向けての自己課題	予習内容 保育者になる上での今後の自己課題を考える(30分) 復習内容 授業、実習を経験して、学んだことや自己課題を整理する(30分)
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）				
担当者氏名	平山 隆浩、溝上 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP2 社会人としての教養と豊かな人間性を備え、誠実で責任感が強く、良識をわきまえた言動ができる。 1-DP3 保育者としての専門的知識と基礎スキルが身についている。				

《授業の概要》

【保育士必修】【幼稚園教諭必修】

これまでの実習で学んできたことを基に、役割演技や事例研究等を通して、保育者としての資質・能力の形成状況を確認するとともに、自己の課題を自覚し不足しているところを補い改善を図ってより良い保育者としてスタートできるように備える。グループ討論、ロールプレイング等の授業方法を活用し学生が主体的に学ぶ授業を展開する。

《授業の到達目標》

1. 保育者として必要な専門的知識及び技術、総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り自己課題を把握することができる。
2. 保育者としての使命感や責任感、対人関係能力、学級経営力等についての資質の向上を目指し準備をすることができる。

《成績評価の方法》

レポート 20%
課題 50%
授業の取組 30%

《教科書》

「これまでの学びと保育者への歩み」
小櫃智子・矢藤誠慈郎 わかば社

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出課題は、2週間以内にコメントをつけて返却する。

《成績評価基準》

1. 保育者として必要な専門的知識及び技術、総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り自己課題を把握することができたか。
2. 保育者としての使命感や責任感、対人関係能力、学級経営力等についての資質の向上を目指し準備をすることができたか。

《参考図書》

「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館
「保育所保育指針解説」 フレーベル館
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)	
1	保育・教職実践演習のねらい	予習内容(2時間) 復習内容(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 学習したことを教科書等を読み返しノートに整理する
2	子ども理解の方法 と実際	予習内容(2時間) 復習内容(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 学習したことを教科書等を読み返しノートに整理する
3	教育課程・全体的な計画の検討	予習内容(2時間) 復習内容(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 学習したことを教科書等を読み返しノートに整理する
4	教育課程・全体的な計画の検討	予習内容(2時間) 復習内容(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 学習したことを教科書等を読み返しノートに整理する
5	保育内容と保育方法の研究 保育者の職務の検討	予習内容(2時間) 復習内容(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 学習したことを教科書等を読み返しノートに整理する
6	保育内容と保育方法の研究 保育内容の理解	予習内容(2時間) 復習内容(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 学習したことを教科書等を読み返しノートに整理する
7	保育内容と保育方法の研究 保育の振り返り	予習内容(2時間) 復習内容(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 学習したことを教科書等を読み返しノートに整理する
8	保護者及び地域との関係づくり・幼保小の連携	予習内容(2時間) 復習内容(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 学習したことを教科書等を読み返しノートに整理する
9	園の安全管理	予習内容(2時間) 復習内容(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 学習したことを教科書等を読み返しノートに整理する
10	保育者の専門性の理解	予習内容(2時間) 復習内容(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 学習したことを教科書等を読み返しノートに整理する
11	保育者のコミュニケーション能力の向上	予習内容(2時間) 復習内容(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 学習したことを教科書等を読み返しノートに整理する
12	保育現場の現状と課題	予習内容(2時間) 復習内容(2時間)	実習経験をもとに保育現場の課題についてまとめる 学習したことを教科書等を読み返しノートに整理する
13	保育者に求められる感性と創造性	予習内容(2時間) 復習内容(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 学習したことを教科書等を読み返しノートに整理する
14	特別な支援を必要とする子どもの保育の理解	予習内容(2時間) 復習内容(2時間)	指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと 学習したことを教科書等を読み返しノートに整理する
15	自分の保育者像を目指して	予習内容(2時間) 復習内容(2時間)	半期の学びを整理する 半期の学びを振り返りレポートを作成する。

《専門科目》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	富永 明子、平山 隆浩、吉原 美南子、溝上 敦子、下稻 美里				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年（後期）
ディプロマポリシーに沿って重点的に身につける能力	1-DP1 広い視野で物事を捉え、感謝の心をもって積極的に学ぶ力をつけている。 1-DP3 保育者としての専門的知識と基礎スキルが身についている。				

《授業の概要》

各教員の専門性に関連する内容の中で、それぞれが研究テーマを設定し、1年を通して応用的、探索的に研究を行う。後期には、研究テーマを確定し、15回終了後には卒業研究発表会を開催し、各ゼミにおける取り組みを発表する。

《教科書》

ゼミごとに指定する

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

ゼミごとに指定する

《授業の到達目標》

1. 保育者としての専門的知識と基礎スキルを、ゼミナール形式の演習を通して身につける
2. 自ら課題を設定し、主体的に学び、テーマについて探求することができる
3. ゼミ活動を通して、保育者として求められる他者との協働性や協調性を身につける

《成績評価基準》

- ・保育者としての専門的知識と基礎スキルを身につけることができたか。
- ・自ら設定した課題について主体的に学び、テーマについて探求したか。
- ・ゼミ活動を通して、保育者として求められる他者との協働性や協調性を身につけることができたか。

《成績評価の方法》

筆記試験 % レポート %
 課題 70% 実技 %
 授業の取組 30%
 その他 () %

《参考図書》

ゼミごとに指定する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	研究テーマの再考	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
2	テーマに基づいた研究	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
3	テーマに基づいた研究	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
4	テーマに基づいた研究	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
5	テーマに基づいた研究	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
6	テーマに基づいた研究	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
7	テーマに基づいた研究	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
8	テーマに基づいた研究	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
9	テーマに基づいた研究	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
10	研究のまとめ	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
11	研究のまとめ	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
12	研究のまとめ	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
13	卒業研究発表会準備	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
14	卒業研究発表会リハーサル	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)
15	1年間のゼミ活動のまとめ	ゼミごとに指定された課題を行う(予習:2時間、復習:2時間)